



特別企画

新春対談

対談完全版

世界屈指のラグジュアリーホテルが奈良に誕生

— 奈良らしさを存分に取り入れたおもてなしで 最高のマインドフルネス体験を —

株式会社保険総合研究所
代表取締役

清岡 義教



JWマリオット・ホテル 奈良
総支配人

クリストファー・クラーク

HOKEN SOKEN

株式会社保険総合研究所。



清岡：世界各地でホテルを展開されている、マリオットインターナショナル様のホテルブランドの中でも、最上級のラグジュアリーブランドである、JWマリオット・ホテルが奈良にできると聞いて、かねてより楽しみにしておりました。

クラーク：ありがとうございます。開業までには地元の方々からたくさんのお力添えをいただきました。まずはお礼申し上げます。マリオットインターナショナルには30のホテルブランドがありますが、中でも創業者であるジョン・ウィラード・マリオットの偉業を称え、その名を唯一冠したJWブランドは、特別な存在です。そのホテルが今回日本に初上陸するということで、この奈良での開業は我々にとっても記念すべきこととなりました。

清岡：エントランスに入った瞬間から、オブジェや絵画、絨毯に至るまで、随所に奈良を感じるおもてなしの心が伝わってきて、やっと奈良にもこのようなホテルができると、本当に嬉しく思っています。

クラーク：JWブランドは、1984年にアメリカ・ワシントンD.C.にて誕生しましたが、2000年に入った頃より、likeにとどまらずloveまでお客様からの愛着を高めようとさまざまな取り組みを行ってきました。そして、数年前より定まってきたのが「マインドフルネス」というコンセプトです。その土地に溶け込んだホテルづくりを行い、最

高にラグジュアリーな空間で極上のリラックスを味わっていただく。JWブランドは世界中にありますが、JWマリオット・ホテル奈良でしか味わえない、この土地を活かしたおもてなしでお客様をお迎えしています。



清岡：実際にどのようなおもてなしをされているのでしょうか？

クラーク：ホテルに入った瞬間からリラックスしていただけるよう、まずチェックイン時にお好みのアロマオイルの香りをお楽しみ頂けるリラクゼーションサービスをご提供しています。ご滞在時には、奈良県産の柿のスクラブを取り入れたスパや、いい1日のスタートをサポートするヨガやストレッチの無料プログラムもあります。より奈良らしいおもてなしとしては、JWガーデンというものがあります。奈良の農家のみなさんにお力を借りたホテル館内のミニガーデンなのですが、そこで育ったハーブや野菜をお食事やカクテルで提供するワンランク上の食体験をご用意しています。奈良には「大和野菜」という素晴らしい野菜があるものの、まだあまり知られていません。ゆくゆくは京野菜に負けないブランドに育てたいと、頑張っている農家のみなさんをサポートする意味でも、この取り組みを続けています。同時に、奈良の職人のみなさんとのコラボレーションも大切にしたいと考えています。開業が決まってからの1年半、実際に、ジンの蒸留所やかき氷の名店、茶人など、職人のみなさんにお会いして心に残るお話をたくさんお聞かせいただきました。その感動を将来的には当ホテルを通して、お客様に楽しみ、味わっていただきたいと準備を進めています。私はスタッフに

クリストファー・クラーク

JWマリオット・ホテル奈良 総支配人

米国コネチカット州生まれ。成都、ソウル、東京、三亞、バリ、クアラルンプール、アトランタなど、世界各地のザ・リッツ・カールトン・ホテル＆リゾートにてさまざまな上級管理職を歴任し、20年以上にわたる国際的なラグジュアリーホスピタリティを経験。2015年よりザ・リッツ・カールトン大阪の総支配人も務め、同氏指揮の下、一流の格付けとして知られる「フォーブス・トラベルガイド」でホテル開業以来、最高の4つ星を獲得。また、ホテル内フランス料理レストラン「ラ・ベ」も、2017年と2018年に2年連続でミシュランの星を獲得した。2019年、日本初上陸のJWブランドを展開するため、JWマリオット・ホテル奈良の総支配人に就任。

特別企画 対談完全版

いつも、どんどん出かけて実際に体験し、農家や職人のみなさんとどんなコラボレーションができるか道を探してきてほしいと伝えています。そしてJWマリオット・ホテル奈良に来たからこそお客様に楽しんでいただけるようなものを提供したいと思っています。

清岡：奈良の人は意外と奈良を知らないんですね。だからこそ、そのような取り組みは、奈良の人にとっても再発見があり、もっと奈良を好きになるきっかけになるのではと感じました。また、我々も創業してから48年目になるので、奈良で頑張ってお商売をされているたくさんの2代目、3代目の経営者の方と顔見知りなんですね。そんな地元の温かさを繋いでいくのも僕の仕事かなと思っています。例えば、一緒に何ができるか、ディスカッションの場を設けたりすることは、彼らにとってもプラスになると思うんです。

クラーク：それはとてもありがとうございます。奈良には素晴らしい方々がたくさんいるのですが、シャイな方が多くて（笑）。清岡さんのローカルな方々との信頼関係、絆をぜひお貸しいただければと思います。

コロナ禍だからこそ前向きな面に目を向け 日本や地元の素晴らしさを体感しよう

清岡：奈良という土地は、ホテルや旅館はあるものの、宿泊は大阪や京都に流れてしまう状況が長く続いてきました。そのような土地柄での開業に不安などはありませんか？

クラーク：確かに以前は、日帰り旅行の目的地という印象でしたし、今回の開業は簡単なことではないと思ったことも事実です。ですが、今は違います。奈良は歴史や文化が豊かな素晴らしい場所にもかかわらず、インターナショナルなラグジュアリー・ホテルの競合が一つもありません。これは、これまで15のホテルの開業に携わってきた経験の中でも異例で、非常にユニークな機会をいただいたと思っています。しかもJWというブランドで勝負するわけですから、まさにエキサイティング。奈良は日帰りという概念を変える可能性を秘めたチャレンジだとワクワクしています。16の時にこの仕事に就きたいという夢を持ちましたが、一番大切なのは情熱をもって働くこと、そして心から好きでなければできない仕事だと思っています。どんな状況下にあっても、お客様にかけがえのない思い出づくりを提供できる素晴らしい仕事であることは変わりません。

清岡：保険総研も「安心、信頼、感動」を企業理念に掲げ、企業のリスクマネージメントを行ってきました。保険で感動と聞くとイメージしにくいと思いますが、ただ保険を売るのではなく、スタッフ一人ひとりが情熱をもって、目に見えない些細な心遣い、おもてなしといった感動を積み重ねることで、お客様からの信頼を得ることができ、リピーターになってくださったり、他のお客様をご紹介してくださったりするんですね。そういう意味で、とても共感できます。

クラーク：なるほど、業種の違いはあっても、お客様とのパーソナルな信頼関係をつくっていくところなど、非常に共通点がありますね。

清岡：まさかのコロナ禍での開業にもなり、予想外なこともあったのではないか？

クラーク：奈良県が「いまなら。キャンペーン」を打ってくださったこともあり、本当に驚くほど、地元の方々にご利

用いただいていることでしょうか。コロナはみなにとって災難ではありますが、日本人が改めて自国をじっくりと見て回り、知れる機会をいただいたと捉える事もできると思います。もしかしたら、今までラグジュアリー・ホテルに泊まる機会がなかったお客様にも体験いただけるきっかけになっているかもしれません。そして、こういう機会は二度とないかもしれません。だからこそ、ぜひ今自分の住んでいる町、国に目を向けてその素晴らしさを体感して欲しいと思います。私はありがたいことに、外国人として日本に住むという本当に貴重な経験をさせていただいている。外に出たことのないアメリカ人というのは、アジアをひとくくりにして考えがちなのですが、アジアでも個性が違うように、日本も地域によって全然違いますよね。その中で奈良は人が温かく、フレンドリーで、そんな人ととの温かな距離感は、私が生まれ育ったアメリカの小さな州に似ていて懐かしく思います。人を知るとその土地の文化が見えてきます。実際にやってみて体感することができる、そんな貴重な時間を今私たちは貰っているように感じています。



子どもたちの将来のために
グローバルなホテルで体験を

清岡：奈良は、夜景も素晴らしい、螢や奈良公園に朝霧がただよう幻想的な風景など、ここでしか見られない、出会えないものがたくさんあります。ゲストの方にもぜひ楽しんでいただきたいですね。また、子どもたちに向けたプログラムがあると、将来グローバルな視点で物事を考えられる、よい経験になるのではないでしょうか。

クラーク：素晴らしいですね。どれも奈良に宿泊しなければ経験できないことですし、奈良だからこそその体験です。子どもたちに関しては、実はこれまでに2回ほど、中高生を対象としたテーブルマナー講座を開催しました。ただ楽しいものではなく、将来子どもたちの役に立つ教育的な要素があるプログラムを、今後もたくさん開催できればと思っています。先日も、中学生の男の子が帰り際に「クリスさん、僕の顔覚えててね、必ず戻りますよ！」と声をかけてくれて。講座に参加してくれた子どもたちが、今後初めてのデートで使ってくれるかもしれない、もしかしたら結婚式を挙げてくれるかもしれない、そういうワクワクも尽きません。

清岡：子どもの頃からこちらのようなホテルにふれていると、海外のようにホテルに滞在してホテル自体を楽しむ文化も根付いていきやすいのかもしれません。

クラーク：そうなんですね。現代はみなさんストレスを抱えて生きていますが、ラグジュアリー・ホテルへの滞在は、最高のストレス解消法だと思うんです。週末だけでもステイしてゆっくりすることで、日頃のストレスを解放してみませんか？

特別企画 対談完全版

清岡：私はホテル滞在型です（笑）。

クラーク：おお！ぜひ何回でも泊まりにきてください！ご家族にもお会いしたいです（笑）。

奈良は最も新鮮な、最も古い都市 地元が一丸となって継続的なプロモーションを

清岡：今後奈良が発展していくためには何が必要だと思われますか？

クラーク：やはり、奈良をいかに滞在できる場所にするかだと思います。私は、よく「奈良は最も新鮮な、最も古い都市だ」と言うのですが、日本の古都でありながら、まだ知られていない事がたくさんあります。そういうポジションから抜け出し、まず奈良に行ってみたいと思ってもらえるところまでもって行きたいと思っています。そのためには、県も市も我々も奈良全体が一丸となって継続的にプロモーションを考えいかなければなりません。大きな課題ではありますが、成功すれば他のホテルも奈良での開業を検討するなど、ビジネスも活性化し、奈良がどんどん活気づいていくと思います。そのために私たちが持っているリソースは存分にシェアしたいと思います。そして何より我々としてはJWマリオット・ホテル奈良を成功させなければなりません。今後、日本各地にJWマリオット・ホテルができた時、我々が創り上げるこのホテルのおもてなしとスタンダードになるという意味でも、非常に責任が大きい。だからこそ、JWマリオット・ホテルは素晴らしいラグジュアリーブランドであると、お客様の意識に浸透させることができるよう、頑張っていこうと思っています。

清岡：ますますこれから奈良が楽しみになりました。

クラーク：奈良を日帰りで帰るなんて、もったいない。奈良の本当の文化をオープンにしていくために、ぜひ一丸となって頑張りましょう。

清岡：はい、ぜひともよろしくお願ひいたします。



写真：JWマリオット・ホテル奈良 ラウンジバー Flying Stag



写真：JWマリオット・ホテル奈良 SPA by JW プール

